

「心拍数」「発汗量」「皮膚温」「活動量」のマルチセンサ搭載！

熱中症対策デバイス

開発中

## WLS-1000

## 世界的にもユニークな「発汗センシング技術」

発汗は、身近な生理現象ですが、それを高精度に測定するには意外にも高度な技術が必要になります。本機は、信州大学発ベンチャーが開発した世界的にもユニークな発汗センシング技術特許取得済みを用いた発汗センサを搭載しており、発汗量の変化を高度に測定します。

マルチセンサを用いた  
高度な熱中症の危険予測

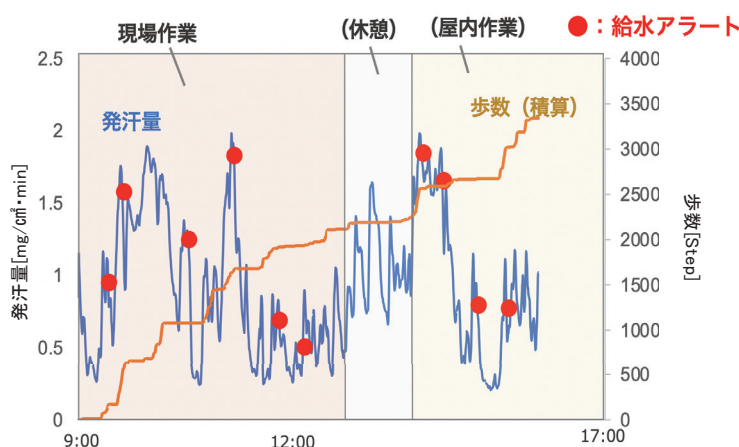
熱中症の危険サインは、身体様々な場所に現れます。本機は、心拍数、発汗量、皮膚温、活動量のマルチセンサを用い、より高度に熱中症の危険を検知します。

## 体水分量の喪失を検知、水分補給を促す「給水アラート」

人間の体は約60~70%が水できているとされ、体重の2%程度の水分が喪失しただけでも身体パフォーマンスが低下すると言われています。発汗は、体の水分喪失の大きな原因です。特に、炎天下、運動・作業中はその影響が顕著です。本機は、発汗量の変化から身体の水分喪失の程度をセンシングし、必要なタイミングでアラートを表示します。給水アラートに従って、適切な休憩や給水を行うことで、身体パフォーマンスの維持にも役立ちます。

WLS-1000  
(プロタイプ)

## 屋外・屋内作業中心の業務とデスクワーク中心の業務における発汗量の測定事例 (同一被験者:30代男性)



作業中心の業務(当日最高気温27℃)では、発汗量も多く、給水アラートの頻度が高くなります。一方で、デスクワーク中心の業務では、発汗量は少なく、給水アラートも少なくなります。

開発パートナー募集中!

Science of sweat